

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	丸の内ビジネス専門学校
設置者名	学校法人 秋桜会

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
商業実務 専門課程	ビジネス科	夜・通信	1752 単位時間	160 単位時間	
	グローバルビジネス科	夜・通信	930 単位時間	80 単位時間	
文化教養 専門課程	国際関係学科 (日本語教師養成コース)	夜・通信	2040 単位時間	160 単位時間	
		夜・通信			
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<https://www.marubi.ac.jp/public-info.html> にて公表

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	丸の内ビジネス専門学校
設置者名	学校法人 秋桜会

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.marubi.ac.jp/public-info.html> にて公表

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	元 大学教授	H29. 12. 6～ R3. 12. 5	教育業界の知見
非常勤	製造関係企業 代表取締役	H29. 12. 6～ R3. 12. 5	経済界の知見
非常勤	食品関係企業	H29. 12. 6～ R3. 12. 5	経済界の知見
非常勤	元 地方公共団体職員 大学客員教授	H29. 12. 6～ R3. 12. 5	行政上の知見
(備考)			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	丸の内ビジネス専門学校
設置者名	学校法人 秋桜会

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>前年度の授業評価について検討し、次年度の授業計画に反映するために、3月にカリキュラム委員会を開催する。学生の知識・スキルに関しての到達目標に対して時間配分や授業内容を精査し、必要に応じてシラバスの見直しを行う。</p> <p>新年度のシラバスは、前年度3月下旬に作成し、学生に公表する。また、当校ホームページでも公表する。</p>	
授業計画書の公表方法	https://www.marubi.ac.jp/public-info.html にて公表
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>学生の出席率を常に把握し、遅刻や欠席が続く場合には、生活指導担当より、本人及び家族と連絡をとり、状況を調べ対応する。</p> <p>各科目授業時間の3分の1以上欠席すると、該当科目の受験資格を失い、単位認定ができないことを事前に通知する。また、学期の初めに諸注意を徹底させている。</p> <p>各科目の試験については、シラバス内で試験方法について明示してあるが、試験日が近くなった場合には、試験範囲とともに、試験方法について通知する。</p> <p>評価基準は、80点以上をA、70点以上80点未満をB、60点以上70点未満をC、59点以下をDとする。成績評価は、試験、平常の成績、レポートおよび成果物等により行う。</p> <p>また、D評価の科目については、不合格となり単位認定ができないため、再試験または再履修が必要である。</p> <p>各学生の学習成果に基づき、あらかじめ設定した成績評価の方法・基準により、厳格かつ適正に単位授与または履修認定を実施している。</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>履修科目の成績評価を A=3点、B=2点、C=1点、D=0点で数値化し、点数×単位数の総合計をカリキュラムに記載の履修単位数で割ってGPAを算出し、成績の分布状況を把握する。</p> $\text{GPA} = \frac{(3 \times \text{A 評価単位数} + 2 \times \text{B 評価単位数} + 1 \times \text{C 評価単位数})}{\text{カリキュラムに記載の履修単位数合計}}$ <p>あらかじめ設定した算出方法により GPA 等の数値を算出している。</p>	
客観的な指標の算出方法の公表方法	https://www.marubi.ac.jp/public-info.html にて公表
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本校は、設置する学科に関連する業界で活躍できる専門知識や技術を習得し、良識ある社会人として必要な素養を身に付け、国や地域社会、国際社会の発展に貢献できる心豊かな職業人の養成を目標とする。</p> <p>以下の能力を身につけ、所定の年限在学し、かつ所定の授業科目および授業時間（1年制学科 810 単位時間以上、2年制学科 1620 単位時間以上）を履修した学生の卒業を認定する。</p> <p>なお、2年制学科は、専門士の称号を付与するが、「卒業研究の発表」が義務付けられており、事前に審査に合格したもののみが発表できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 多様な時代の多様な変化に対応でき、実践で活かせる専門知識や技術を習得している。 2. 幅広い視野と良識を持ち、心豊かな人間性を形成している。 3. 自らの職業能力を証明する資格を取得している。 4. 職業人としてのビジネスマナー、コミュニケーション能力を身に付けている。 5. 他国の様々な文化を理解できる国際人である。 6. 職業人として生涯自分の支えとなるチャレンジする姿勢と諦めない姿勢を身に付けている。 <p>卒業の認定に関する方針や学生の修得単位数等を踏まえ、卒業認定委員会において、卒業を認定している。</p>	
卒業の認定に関する方針の公表方法	https://www.marubi.ac.jp/public-info.html にて公表

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	丸の内ビジネス専門学校
設置者名	学校法人 秋桜会

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.marubi.ac.jp/public-info.html にて公表
収支計算書又は損益計算書	https://www.marubi.ac.jp/public-info.html にて公表
財産目録	https://www.marubi.ac.jp/public-info.html にて公表
事業報告書	https://www.marubi.ac.jp/public-info.html にて公表
監事による監査報告（書）	https://www.marubi.ac.jp/public-info.html にて公表

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		商業実務専門	ビジネス科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1620 単位時間/単位	1542 単位時間 /単位	870 単位時間 /単位	420 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
2832 単位時間/単位							
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120人		55人	14人	11人	20人	31人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>前年度の授業評価について検討し、次年度の授業計画に反映するために、3月にカリキュラム委員会を開催する。学生の知識・スキルに関しての到達目標に対して時間配分や授業内容を精査し、必要に応じてシラバスの見直しを行う。</p> <p>新年度のシラバスは、前年度の3月下旬に作成し、学生に公表する。また、当校ホームページでも公表する。</p> <p>カリキュラム（授業方法および内容、年間の授業計画）は、シラバスで公表した内容を実施する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>成績評価は、試験、平常の成績、レポートおよび成果物等により、原則として各科目の最終授業時に評価する。</p> <p>評価基準は、80点以上をA、70点以上80点未満をB、60点以上70点未満をC、59点以下をDとする。D評価の科目については、不合格となり単位認定ができないため、再試験または履修が必要である。</p> <p>所定授業時間の3分の1以上欠席すると、該当科目の受験資格を失うため、補講を受講後に再試験、または履修が必要である。</p> <p>各学生の学修成果に基づき、あらかじめ設定した成績評価の方法・基準により、厳格かつ適正に単位授与または履修認定を実施している。</p>

卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>所定の年限在学し、かつ所定の授業科目および授業時間（1620 単位時間以上）を履修した学生の卒業を認定する。</p> <p>なお、専門士の称号を付与するが、「卒業研究の発表」が義務付けられており、事前に審査に合格したもののみが発表できる。</p> <p>卒業の認定に関する方針や学生の履修単位時間等を踏まえ、卒業認定委員会において、卒業を認定している。</p>
学修支援等
<p>(概要)</p> <p>特待生制度あり</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
27 人 (100%)	0 人 (0%)	23 人 (85.1%)	4 人 (14.8%)
(主な就職、業界等) 専門学校職員、運輸業、製造業、サービス業 等			
(就職指導内容) 授業として、キャリア形成の指導をし、企業見学やインターンシップ等により、個々の学生にあった就職指導をしている。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 希望する職種に必要な資格取得を促す。			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
93 人	6 人	6.45 %
(中途退学の主な理由) 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、留学生が本国の家族から送金を受けられず経済的に困窮し、学業を続けることが困難となったため。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 面談等で本人の状況を把握し、経済的に困窮している学生には、学納金の納入を猶予し、学業を続けられるよう支援している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		商業実務専門	グローバルビジネス科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	810 単位時間/単位	750 単位時間 /単位	480 単位時間 /単位	80 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			1310 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60人		4人	0人	11人	20人	31人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)	
<p>(概要)</p> <p>前年度の授業評価について検討し、次年度の授業計画に反映するために、3月にカリキュラム委員会を開催する。学生の知識・スキルに関しての到達目標に対して時間配分や授業内容を精査し、必要に応じてシラバスの見直しを行う。</p> <p>新年度のシラバスは、前年度の3月下旬に作成し、学生に公表する。また、当校ホームページでも公表する。</p> <p>カリキュラム (授業方法および内容、年間の授業計画) は、シラバスで公表した内容を実施する。</p>	
成績評価の基準・方法	
<p>(概要)</p> <p>成績評価は、試験、平常の成績、レポートおよび成果物等により、原則として各科目の最終授業時に評価する。</p> <p>評価基準は、80点以上をA、70点以上80点未満をB、60点以上70点未満をC、59点以下をDとする。D評価の科目については、不合格となり単位認定ができないため、再試験または再履修が必要である。</p> <p>所定授業時間の3分の1以上欠席すると、該当科目の受験資格を失うため、補講を受講後に再試験、または再履修が必要である。</p> <p>各学生の学修成果に基づき、あらかじめ設定した成績評価の方法・基準により、厳格かつ適正に単位授与または履修認定を実施している。</p>	

卒業・進級の認定基準	
<p>(概要)</p> <p>所定の年限在学し、かつ所定の授業科目および授業時間 (810 単位時間以上) を履修した学生の卒業を認定する。</p> <p>卒業の認定に関する方針や学生の履修単位時間等を踏まえ、卒業認定委員会において、卒業を認定している。</p>	
学修支援等	
<p>(概要)</p> <p>特待生制度あり</p>	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
2人 (100%)	0人 (0%)	2人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 販売業、製造業の事務職			
(就職指導内容) 授業として、キャリア形成の指導をし、企業見学やインターンシップ等により、個々の学生にあった就職指導をしている。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 希望する職種に必要な資格取得を促す。			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
2人	0人	0.0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 面談等で本人の状況を把握し、学業を続けられるよう支援する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化教養	文化教養専門	国際関係学科 日本語教師養成コース	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1620 単位時間/単位	1350 単位時間 /単位	630 単位時間 /単位	720 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			2700 単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40人	2人	1人	11人	20人	31人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要)</p> <p>前年度の授業評価について検討し、次年度の授業計画に反映するために、3月にカリキュラム委員会を開催する。学生の知識・スキルに関する到達目標に対して時間配分や授業内容を精査し、必要に応じてシラバスの見直しを行う。</p> <p>新年度のシラバスは、前年度の3月下旬に作成し、学生に公表する。また、当校ホームページでも公表する。</p> <p>カリキュラム (授業方法および内容、年間の授業計画) は、シラバスで公表した内容を実施する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <p>成績評価は、試験、平常の成績、レポートおよび成果物等により、原則として各科目の最終授業時に評価する。</p> <p>評価基準は、80点以上をA、70点以上80点未満をB、60点以上70点未満をC、59点以下をDとする。D評価の科目については、不合格となり単位認定ができないため、再試験または履修が必要である。</p> <p>所定授業時間の3分の1以上欠席すると、該当科目の受験資格を失うため、補講を受講後に再試験、または履修が必要である。</p> <p>各学生の学修成果に基づき、あらかじめ設定した成績評価の方法・基準により、厳格かつ適正に単位授与または履修認定を実施している。</p>

卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>所定の年限在学し、かつ所定の授業科目および授業時間 (1620 単位時間以上) を履修した学生の卒業を認定する。</p> <p>なお、専門士の称号を付与するが、「卒業研究の発表」が義務付けられており、事前に審査に合格したもののみが発表できる。</p> <p>卒業の認定に関する方針や学生の履修単位時間等を踏まえ、卒業認定委員会において、卒業を認定している。</p>
学修支援等
<p>(概要)</p> <p>特待生制度あり</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
1人 (100%)	0人 (0%)	1人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 専門学校職員			
(就職指導内容) 授業として、キャリア形成の指導をし、企業見学やインターンシップ等により、個々の学生にあった就職指導をしている。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 希望する職種に必要な資格取得を促す。			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
1人	0人	0.0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 面談等で本人の状況を把握し、学業を続けられるよう支援する。		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
ビジネス科	200,000 円	550,000 円	150,000 円	施設費
グローバルビジネス科	200,000 円	550,000 円	150,000 円	施設費
国際関係学科 日本語教師養成コース	200,000 円	550,000 円	150,000 円	施設費
修学支援 (任意記載事項)				
特待生制度あり				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.marubi.ac.jp/public-info.html にて公表		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)		
<p>学校関係者評価委員会を開催する。委員会は、在校生、地域住民、卒業生就職先企業および地元企業の代表者で構成される。</p> <p>主な評価項目は、教育目的、教育活動、学生支援等とし、学校訪問、意見交換等を通じて、自己評価結果について評価する。</p> <p>評価結果を踏まえた今後の改善方策についてはホームページにて公表する。</p> <p>また、保護者への説明、関係業界・地域住民等との意見交換の機会などにおいて説明を行い、今後の取り組みに向けて、連携・協力の強化や支援が得られるようにする。</p>		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
専門商社		企業等委員
建設関係企業		企業等委員
医療機関		就職先企業等委員
元 介護福祉施設		地域住民
		地域住民
丸の内ビジネス専門学校		在校生
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.marubi.ac.jp/public-info.html にて公表		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.marubi.ac.jp/public-info.html にて公表

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	H120320200099
学校名	丸の内ビジネス専門学校
設置者名	学校法人 秋桜会

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		4人	4人	4人
内訳	第Ⅰ区分	2人	4人	
	第Ⅱ区分	1人	0人	
	第Ⅲ区分	1人	0人	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				4人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
		年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定			0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)			0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況			0人	0人
「警告」の区分に連続して該当			0人	0人
計			0人	0人
(備考)				

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
	年間	前半期	後半期	0人
			0人	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)		0人	0人
GPA等が下位4分の1		0人	0人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況		0人	0人
計		0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。